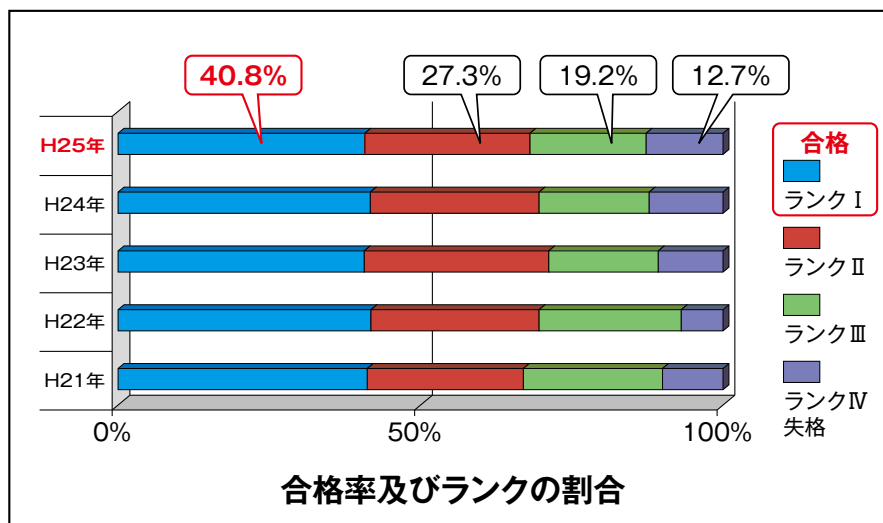


平成25年 一級建築士試験「設計製図の試験」合格発表 講評

平成25年12月19日(木)に、平成25年試験「一級建築士 設計製図の試験」の合格者及び合格基準が発表されました。

設計課題名は「大学のセミナーハウス」で、平成21年に新試験制度になってから5度目の試験です。合格者の数字を表すランクⅠは40.8%、未完成及び失格者の数字を表すランクⅣは12.7%という結果でした。完成率が高かった割にランクⅣは少し高めの数値となっていますが、これは『建ぺい率の限度60%』の制限違反(建築面積が1,050㎡超)によるものと思われます。また、ランクⅡが27.3%ということは、過去のランク割合からみても、この5年間の難易度の傾向は変わらず、計画の自由度が高く、建ぺい率以外には意外性の少ない試験であったことがうかがえます。



失格項目や大きな減点項目による定量的な採点ではなく、「設計」の完成度と、「製図」の表現力、「記述」の説明能力の総合力で評価される試験であったといえるでしょう。

以下、採点のポイントの中から、建ぺい率の制限以外に主だったポイントをあげます。

(1) 空間構成

- ・建築物の配置計画では、南側道路からのアプローチと景観側への屋外テラスの配置
- ・ゾーニング・動線計画では、地域に開放するゾーンである研修部門・食堂のまとまりと地域住民にわかりやすい動線計画。宿泊者のゾーンのまとまりと避難に配慮した明快な動線計画。そして、この二つのゾーンを明確に分離しつつ、吹抜により空間の連続性を確保すること。
- ・立体構成では、勾配屋根を活かした天井高さ、階高の計画と自然採光を取り入れた1・2階の空間の連続性を確保できる開放的な吹抜け空間の計画

(2) 意匠・建築計画

要求室の機能性・快適性では、ラウンジとしての機能を持つエントランスホールや屋外テラスと一体利用する食堂、並びに、浴室及び宿泊室に眺望を確保し、開口部を広く自然採光を採り入れた計画

(3) 構造計画

勾配屋根の構造計画における柱の均等なスパン割りとスラストに配慮した合理的な梁の架構計画

(4) 設備計画

高天井居室(アトリエ)の適切な空調方式と勾配屋根以外の部分での適切な設備スペースの確保

本年、TACで開講した一級建築士設計製図コースでは、受講者の費用負担と、学習時間の負担を減らしたいという思いのもと、建築士試験の受験指導の豊富な講師が中心となって作成した、厳選8課題で学習してきました。

適正な課題数で、建ぺい率の制限を含めた立地条件、空間の景観側配置と道路からのアプローチの関係、各部門のゾーニングと動線計画等を効率良く学習いただき、高い合格率を出すことができました。

採点ポイントの詳細はこちらの講評をご覧ください。

http://www.tac-school.co.jp/kouza_kenchiku/kenchiku_sikenkohyo13-1s.html

なお、TACのオリジナル合格答案例及び課題ポイントを掲載した書籍を、12/20以降、全国の書店及びTAC出版ホームページにて発売致しますので、こちらでご確認いただくことができます。

TAC出版ホームページ

<http://bookstore.tac-school.co.jp/>



【一級建築士設計製図試験 合格答案のポイント】を動画配信しています！

<http://www.tac-school.co.jp/tacchannel/kouza4050.html>

【平成25年度 設計製図本科生】で実際に用いた全課題とweb上での講義の一部を公開しています！

http://www.tac-school.co.jp/kouza_kenchiku/kenchiku_tekichu.html